



えと文

齊藤光保

驚きから疲労へ

驚きから疲労へ——。しかも仲良し
耐えがたい疲労は——それが精神の場合——
突飛もないところからやつてくる

それを称して人は言う

「衝撃」と然ればかりでなく
相手の無知が、それをひきおこす時
それを何と呼ぼう……

立っている 目が眩む 眠い ネオン

騒音 ふきだまり 罵しり 妊婦

姦通 サリドマイド 紙ぶくろ

しかも独つびとつ しかも調子

しかも立って居 しかも………仲良し

然 それらは 突飛もない時 自分を

さいなむ あるいは 良識 あるいは

人情 勇気 無知 エクセントリシテ

しかも独つびとつ しかもそれぞれ自分をさ
いなむ そして それらは、突飛も無い時——

自分をさいなむ 驚きから疲労へ——。

(香里中高教諭・美術)